

佐藤正浩

共還

運命とは言わない
精巧な凶面は雨に濡れ
肩越しの響きは忘れ去られた

はじめから決まっていたよと影はいう
どこからか落ちて来た
枯れ葉のように
岩の上で休息し
思い出すと宙に舞った

決まったかたちは無いんだと影がいう
見え隠れしながら
分かれたれようのない
魂へと
共に還りついたのだと

舞い上がった枯れ葉
青白い翼となって塔ノ峰を越え
明の星を仰ぐ
「生きる」を包む静かな暗闇が
今を支える